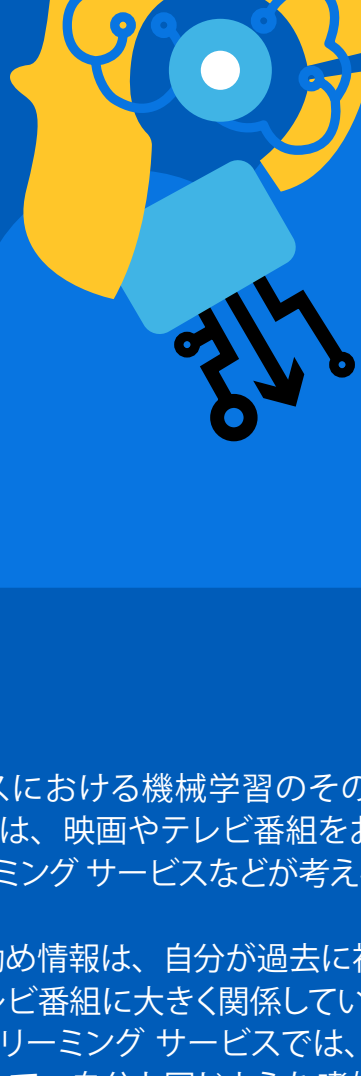


機械学習とは何か

機械学習 (ML) により、私たちの日常生活がさまざまな点で変化しています。お勧めの音楽、お勧めの商品、お勧めのドライブルートなどを紹介してくれるのも機械学習ですが、これらはほんの一部にすぎません。



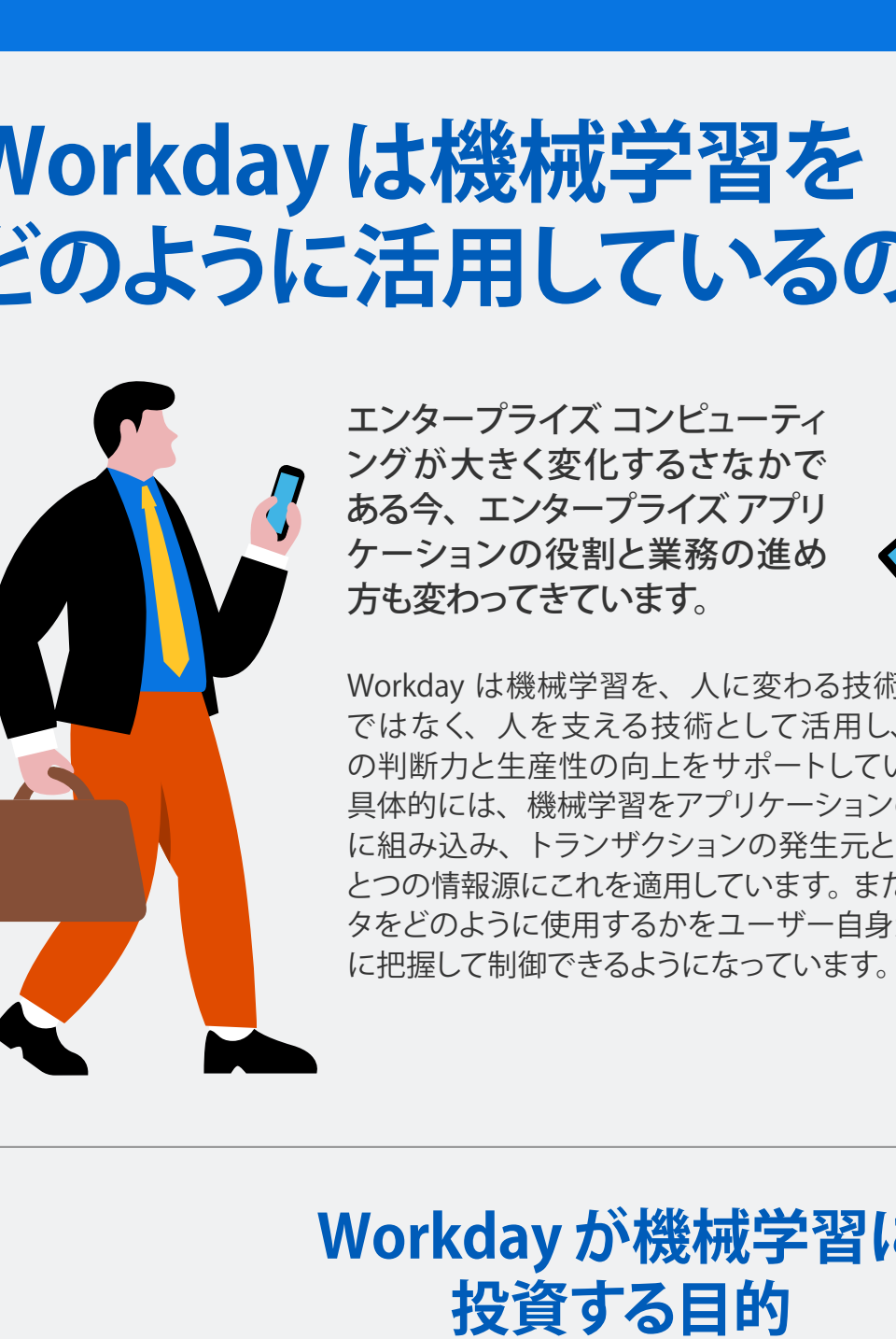
ビジネスにおける機械学習のその他の使用例としては、映画やテレビ番組をお勧めするストリーミング サービスなどが考えられます。

このお勧め情報は、自分が過去に視聴した映画やテレビ番組に大きく関係しています。こうしたストリーミング サービスでは、機械学習を使用して、自分と同じような嗜好を持っている他のユーザーの全体的な行動を分析し、それらのユーザーが視聴したコンテンツをお勧めコンテンツとして提示しています。

機械学習の威力

大量のデータを読み取り、パターンを分析し、正確に予測することができます。

MLとAIが普及している理由



携帯電話やIoTの普及、SaaS アプリケーションの機能改善などにより、データの使用量が大幅に増加しています。

クラウドベースのインフラストラクチャサービスとプラットフォーム サービスにより、データ量、データの種類の種類、データ速度の分析の費用対効果が高くなりました。

予測処理に対するアルゴリズムのアプローチと、意思決定に対する処方的アプローチを採用するケースが増えている。

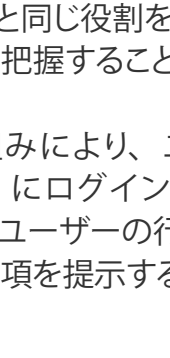
Workdayは機械学習をどのように活用しているのか



エンタープライズ コンピューティングが大きく変化するさなかである今、エンタープライズ アプリケーションの役割と業務の進め方も変わってきています。

Workday は機械学習を、人に変わる技術としてではなく、人を支える技術として活用し、社員の判断力と生産性の向上をサポートしています。具体的には、機械学習をアプリケーションの中核に組み込み、トランザクションの発生元となるひとつの情報源にこれを適用しています。また、データをどのように使用するかをユーザー自身が完全に把握して制御できるようになっています。

Workdayが機械学習に投資する目的



インサイトを
増強



繰り返しの作業を
自動化



ナレッジ管理と
検索をサポート

機械学習の活用

ユーザーエクスペリエンス

機械学習の機能は、ユーザーを軸に据えており、組織にとってのビジネス価値を創出することに重点を置いています。

機械学習を使用して、それぞれのお客様に合わせて Workday のエクスペリエンスをパーソナライズし、絶えず変化するお客様固有のニーズに対応しています。

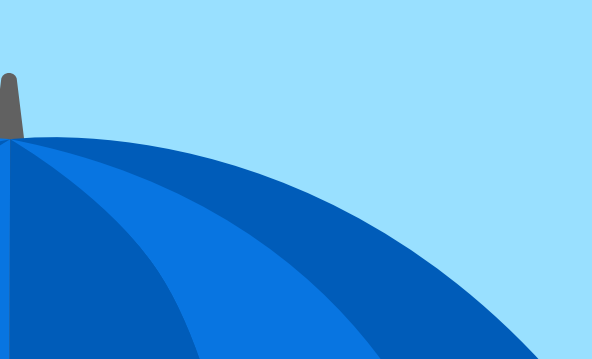
Workday People Experience では、ユーザーの過去の行動に関するデータだけでなく、それ以外のデータも考慮されます。たとえば、あるユーザーの役割を調べて、それと同じ役割を持つ別のユーザーの行動を把握することができます。

この仕組みにより、ユーザーが初めて Workday にログインする場合であっても、そのユーザーの行動を予測して即座に推奨事項を提示することができます。

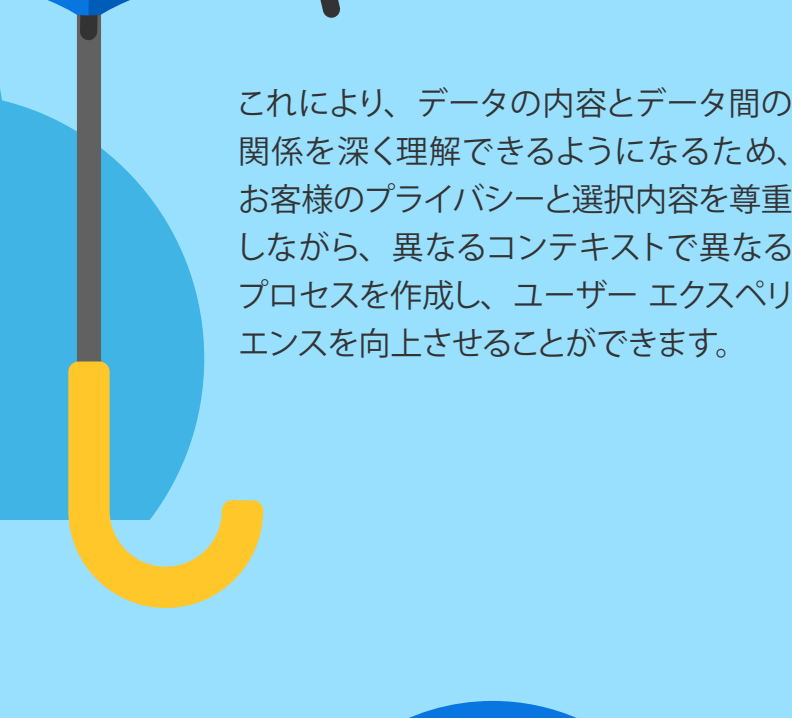
適切なタイミングで適切な推奨情報をユーザーに提示することができます。



考慮する情報の例:



必要なデータに簡単アクセス



ヒューマンキャピタルマネジメント

常に化するビジネス環境において、スキルは新たな価値として認識されています。これを踏まえ、Workday は機械学習を活用して、各企業が自社の社員のスキルを適切に把握できるようにサポートしています。また、社員が自分のスキルを業務で生かせるように、それぞれの社員に合わせてパーソナライズされたエクスペリエンスを作り出しています。

Workday の
利用実績

4,600
万人
のユーザー

162億
5,000万件
1か月間のトランザクション数



お客様がデータを最大限に活用できるようになるわけは?

お客様のすべてのデータは1本の傘の下に統合されているため、すべてが構造化され、意味を持たせることができます。

これにより、データの内容とデータ間の関係を深く理解できるようになるため、お客様のプライバシーと選択内容を尊重しながら、異なるコンテキストで異なるプロセスを作成し、ユーザー エクスペリエンスを向上させることができます。

200,000件
のスキル

これは最近の事例ですが、機械学習を使用して膨大な量のドキュメントの読み取りと分析を行い、20万件を超えるスキルの相関関係を特定してグラフ化することにより、Skills Cloud を作成しました。

その結果、お客様は自社のワークフォースが持っているスキルのタイプを明確に把握し、会社全体としてのスキルとスキルギャップを分析することにより、将来を見据えたプランを作成できるようになりました。



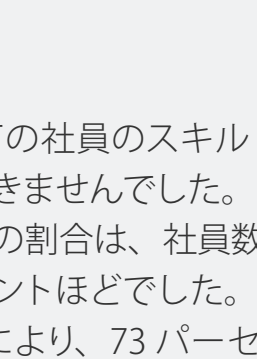
機械学習で業務の進め方を変革



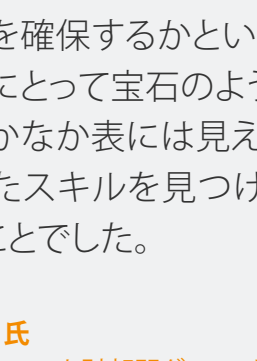
適切な候補者



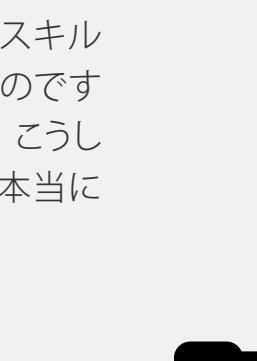
適切な社員



適切な学習コンテンツ



適切な職務



適切な仕事



適切な社員

ファイナンシャルマネジメント

機械学習は、財務業務を次の段階へと引き上げるための非常に重要な役割を担っています。

Workday のコア部分に深く組み込まれた機械学習により、すべてのアプリケーションを通じてさまざまな機能をシームレスに提供できるため、アプリケーションのパフォーマンスが上がり、予測精度も高くなります。

調達から支払まで



買掛金が発生すると、機械学習によって請求データのアップロードとスキャンを実行



手動ルーティングは不要

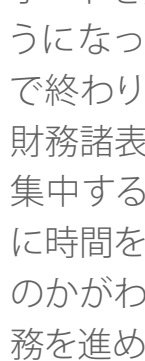


過去のパターンに基づき、最も適切な社員に処理をルーティング



迅速なワークフロー、コストを削減

記録からレポートまで



仕訳インサイトによって異常を検出



例外が発生した場合は、すくに表示

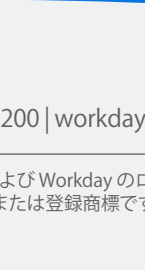


山のようなデータの整理は不要

契約から入金まで



支払処理を行うための複雑なルールの管理は不要



情報が不足している場合でも、機械学習が最も可能性の高いデータを提示

最終的な結果は、機械学習と仕訳インサイトによって節約できた時間を見ればわかります。以前は、半日もしくは一日近くかかっていた処理が、今ではレポートを更新するだけで済むようになったため、わずか30分で終わります。最初から正確な財務諸表ができていれば、何に集中する必要があるのか、どこに時間をかけて留意すればいいのかがわかるため、効率的に業務を進めることができます。



業務が効率化されれば、その分の時間をお客様のサービス向上に割り当てることができます。当社は、カスタマー エクスペリエンスの向上に努めています。Workday はそのための大きな力になっています。

Katie VanHauen 氏
Life Time Fitness
シニアアカウントिंगマネージャー

Gaurav Sharda 氏
Life Time Fitness
Workday 運用
プロセス改善担当ディレクター

明るい未来

今後は、機械学習がさらに進化していきます。Workday は、機械学習の進化に伴ってお客様のビジネス成果を向上させ、長期的な価値をお客様に提供することを目標としています。

さらに詳しい情報については、以下のサイトでご覧ください。

workday.com/innovation

